

1. 様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和6年度第3回西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
開催日時	令和7年1月23日(木) 午前10～12時
開催場所	市役所 大会議室
出席委員の氏名又は人数（敬称略）	瀧川光治、鈴木正敏、松尾寛子、閑念勝代、田口久雄
欠席委員の氏名又は人数（敬称略）	—
出席職員の職・氏名又は人数	教育長 遠藤一博 教育創造部長 足立英則 学校教育課学校教育担当主幹 兼 教育研究室長 宮下晋一  幼保連携課長 伊藤宏明 幼児教育センター長 橋本恭代 幼保連携課（幼児教育センター）小林木綿子 幼保連携課（幼児教育センター）西村麻衣子 幼保連携課（幼児教育センター）前田玲佳
公開・非公開の別	非公開
非公開の理由	個人情報に配慮するため
協議又は協議事項	(1) 第2回視察訪問について(報告) (2) 今年度事業の評価報告について (3) その他
会議の記録（概要）	
発言者	内 容
事務局	1 開会
教育長	2 あいさつ
事務局	(資料確認) ここからの進行は、委員長にお願いする。
委員長	3 第2回視察訪問について（報告）

議事の進行が円滑に進むようご協力をお願いします。では会議次第に従い議事に入る。

それでは各委員から訪問した園の取組の状況等の報告をお願いします。

ここ数年で、質がかなり向上し、PDCAサイクルがしっかりと回るようになってきた。それとともに環境を工夫され、初年度から3年目までと比べると、第2サイクルになり、すごく充実してきたと思う。

#### 園①

2歳児の保育室は、いろいろなコーナーがあり、全体的によく遊んでいた。2歳後半から3歳あたりになると、ままごと遊びやごっこ遊びが充実してくる。ままごとコーナーが広々としていて、環境が充実していて良い。

3歳児は、遊びが続かない子についての相談があり、「続かない理由は①見てもわからない②今の子どもの発達にあっていない③遊びがマンネリ化してきて面白くないのどれか」と担任に問いかけた。先生の答えは「③遊びがマンネリ化してきて、飽きてきているのではないか」ということだった。こちらが助言してその通りやるのが大事なのではなく、先生方が自分の頭で、なぜ今の子どもの姿になっているのかを考える力が必要だと思う。

4歳児は、ままごと遊びを春から発展させ、最終的にラーメン屋さんになっていた。

5歳児も同様に遊びが発展していった様子が見られた。5歳児担任としては、就学に向けてという思いが強く、「深い振り返りはどのようにすればよいか」という質問があったので、図画工作の教科書右下に振り返りの視点が載っているの、言い回しなどが参考になり、使えるかもしれないと伝えた。1年生は、言語力を考えて、教科書に載っているようなレベルで振り返りをされている。そのように考えると、就学前でたくさん何かを言わせようとする、行き過ぎになるのかもしれない。そのチェックもかねて振り返りの項目を見ることを勧めた。

### 【特支】

全体としても相談内容が明確になってきたと感じた。人数を絞り、質問を整理され、事例として、相談される園が多くなってきたと感じる。

家庭環境などの影響がとても大きいので、すべてを改善することは難しいが、先生が家庭環境の中にある課題点にも視点を置き、支援児に関わっていくことが大切だ。

写真カードを使って視覚支援をしているが伝わらないという相談もあった。実際に使われている写真を見ると、背景が映り込んでいるものであった。特性がある子は、背景に意識が向くことが多く、伝えたいことが明確に伝わっていないことがある。また、こども園の子どもたちは、日々の活動経験で成長のスピードが速く、困り感も日々変化していくことがある。その時々に応じてピンポイントにアドバイスしていくことで理解が深まっていると感じている。

### 園②

先生方が意欲的に取り組んでおられた。長い間悩んでおられた0～2歳の保育室の環境も、とても良くなった。特に2歳児は段ボールで仕切りを作り、コーナーでの遊びができるようになっていた。また、太鼓演奏しているところを見て、子ども達は興味をもち、手作り太鼓で遊んだり、お祭りごっこで、なりきって遊んだりして、とても面白くなっていた。1歳児も保育室の環境が変わったことで、子どもたちが育ち、とても落ち着いてきたと感じた。先生方が保育室の環境を何とかしようという気持ちをもたれ、環境を変えられたことで徐々に効果が出てきていると感じた。

3歳児は、よく考えてコーナーを作られていたが、子どもにとっての使いやすさを考えた時に「痒いところに手が届く」というような環境になっていなかったため、改善策を考えてもらった。2回目の訪問時にはとても落ち着いてコーナーで遊べるようになっていた。質が高くなってきたと思う。

4歳児は制作コーナーが充実し、落ち着いて遊んでいる。支援が必要な子どもを中心に、楽しい遊びが展開できるようにしたこと、子どもたちが積極的に制作に関わり、支援児も自分の意見が言えるようになり、クラス全体の遊びに発展していった。1つのクラスでは、一人一人が動物や建物、信号等好きなものを作る中で、だんだんとつながり、クラス全体の活動になったことで、最終的には

「町」ができた。もう1つのクラスは、グループごとに動物づくりをしていた。それを自分達で作って終わりにするのではなく、他のクラスを招待して体験型で遊べるようにするなど、人との関わりを意識して遊ぶことができればより良くなると思った。

5歳児は「協働」というところを前期から意識をされていて、後期では子どもたちがお互いに意見を交わすことができるような関係性ができていた。後期での「キッチンカーごっこ」では、ホットドック屋にお客さんが来ないということがあった。商品をただ並べただけのディスプレイだったため「これで美味しそうかな」と、子ども達に問いかけたことで、子どもたちが気づき、ディスプレイを変えた。すると、お客さんの行列ができるようになり、その子たちは喜び、大満足したという体験ができた。落ち込んで、そこから乗り越える体験がしっかりでき、子どもたちにとってすごく大事な体験ができたと思う。

どのクラスも環境を整えながら、その中で子どもたちの何を育てるかというところをしっかりと考えられるようになってきたなど実感している。担当する人が変わったり、進級したりすると、また次の課題が出てくると思う。課題ができたならそれを乗り越える体験を先生方自身もできたら良いと思う。

#### 【特支】

保育室が広いと、全て見えたり、聞こえたりしてしまい刺激が強い。そのため、特に午後になると顕著にしんどさが現れるという相談があった。その場合、ゆったりできるようなものを活用し、1度リセットすると良いのではと伝えた。外国にルーツを持つ子の中に言語の問題だけではなく、理解力や環境等、複数の困難さを持っている子がいた。保護者についても関係機関などのシステムについてご存じないケースもある。保護者にシステムについて伝えること、そしてお子さんの困難さの原因を整理し、明確にして伝え、理解していただくということも伝えた。

#### 園③

0、1歳児クラスの保育室は広いが、高めの仕切りをたくさん使って仕切っており、安全に遊べるスペースを確保されている。その上で、部屋の外にあるウッドデッキのスペースを整理し、体を動かせるスペースとして使えると良いと伝えた。

1歳児は、「自然物を使った制作はどうしたらよいか」という質問があった。自然物を必ず使わないといけないということではないと思ったので、自然物だけでなく指先を使った遊びや感触を感じられる遊びを子どもの発達に応じてされると良いと話した。

2歳児は、前期で子ども達に身体を使った運動遊びをしてほしいが、どのようにすればよいかという相談があった。遊びの様子を見ると、先生が砂場にいると子どもたちも砂場において、先生が動くと子どもたちも動くという状況だった。先生との関係性はしっかりできているが、子どもたちの動きが先生の動きだとアドバイスをした。

どのクラスも絵本棚に置いてある絵本が、物語絵本や発達に応じた絵本ではなかったため、前期に絵本を選定する必要があると話した。すると、すぐにミライエへ連絡し、絵本を届けてもらい、絵本棚に並べるという「図書館を活用する」ことをされた。後期には、どのクラスもとても良い絵本が並んでいた。

3歳児の担任は、ごっこ遊びが好きで、どんどんアイデアを出し、楽しんでおられる先生なので、特に心配はないと思う。

4歳児は、前期に1日1人の子をピックアップし、その子の良いところを1日に1個伝えていくという「〇〇ちゃんデー」を、勧めた。すぐに取り入れられ、後期には変化が見られたと言われていた。

5歳児は、もともと2クラス分の部屋を1つのクラスで使っているという状況で、半分は遊ぶスペースで、半分は机が1人1台並んでいた。子どもたちは机が並んだところで制作などをしていた。できれば机を4台ほど合わせて、みんなで話し合いながら、一緒に考えて作ることができるようにされてはどうかと話した。

#### 【特支】

今年度、外部から月1回ぐらいのペースで専門家(作業療法士)に来ていただいて相談されていると伺い役割分担を考えて対応し、1～3歳の相談を受け、少しアドバイスをさせていただいた。

#### 園④

熱量が高く、一生懸命取り組んでおられる。また、園が地域の中に根差すような取り組みをされている。また、毎回、指導案、指導計画を作り、私たちを迎えてくださるので、意気込み高く意識的に

取り組んでおられるという印象だ。

0、1歳児クラスで、後期訪問時にドングリなどに実際に触れながら遊んでいた。秋の自然に小さい時期でも触れてほしいと考えてやっておられたが、誤飲の可能性もあるが、そこは、しっかりと意識しながらされていた。もし心配なら、マラカスなどでドングリを使った遊び方もあると伝えた。

2歳児は、どんぐり転がし、なりきり遊び、弁当づくり、カメラ遊びなど、子どもたちの今の発達や興味に合わせて環境や遊びの内容を考えておられた。

3歳児は、誕生表を見ると月齢が二極化していた。4月～6月生まれの子と2，3月生まれの子で固まっていて、夏秋生まれがあまりいなかった。集団や子ども同士のつながりを秋ごろになると意識して保育をするが、二極化しているという現状から考えると、まだ個々に応じてされてもよいのではないかと話した。

4歳児も同じで、低月齢の子たちが9人いて、ほぼ二極化していた。その中ですごいと思ったのが、前期の訪問で色水遊びをされていて、後期の訪問でも色水遊びをされていたということだ。1つのことを継続し、どんどんと発展していることが感じられる保育だった。このようなところから、好奇心や探究心、知的好奇心が育っていくというふうに思った。

5歳児はハロウィンパーティーを自分たちで企画実行するという形で進めておられた。先生が大枠を決めてそこに当てはめていくのではなく、自分たちでどんなハロウィンパーティーをしたいのかということを考え、徐々に進化させていく取り組みですごく良いと思った。また、3月生まれのお子さんに対しては、今の4歳児クラスの育ちも合わせて考えると良いと伝えた。

#### 【特支】

支援度の高い園児も受け入れておられるので、行事の参加方法についても別日で相談を受けている。先生方が、一人一人の子たちにできることをしっかり考えようとしている園だと感じている。

体幹が弱く体が使えていない子や、感情のコントロールができず、自傷や他傷という形で出てしまっている子がいた。自傷や他傷を「やめなさい」と止めるのではなく、自分の思いを言葉で伝える力が育つようなサポート体制をとっていくことが大切だと話をした。各年齢に応じた悩みについてお答えした。

園内研修もよくされていて、職員向けの図書も充実していた。少しずつでも理解、共有できるように書籍や教材が用意されているのだと感じた。

#### 園⑤

0、1歳児は仕切りがない広い部屋だったのでしきりについて話した。玩具もランダムに置いてあったので、傾向ごとに集めてみてはという提案をした。伝い歩きについて、適度な高さとはどのぐらいかということ意識してもらえるようにした。

2歳児は、後期になると少しずつ落ち着いていたので、先生方が一生懸命頑張られたのだと思った。子ども一人一人に対する関わりも非常に落ち着いていてチームワークも良いと思う。

3歳児は、前期に「見立て遊びができるものを用意してね」と伝えた。後期には、子どもたちが室内で制作をしながら、いろいろな遊びを展開していて、非常に良くなっていた。先生が、いろいろな物をそろえたり、特性のある子も楽しめるように配慮されたりしていた。

4歳児は、子の特性や背景がよくわかっておられ、いろいろな国の文化を取り入れながら環境設定がされていた。そこは、4、5歳ともにできていた。「好きな遊び」が見つけれない子がいたので、好きな遊びの時間にその子たちを注意して見てもらい、「好きな遊び」につながるように援助してもらいたいと伝えていた。後半になると、2人で遊ぶことが割とできており、楽しく関係性を持ちながら遊びが進んでいたのが改善されていると感じた。

5歳児は、前半に「テーマを決めて考えてみたらどうですか」と伝えていたら、後半はお化け屋敷ごっこなど、協同して活動することもされていた。また、ドキュメンテーションも活動について詳しく書かれており、地域の方や保護者の方に対して出されていた。一人一人のハロウィンの衣装などをピックアップして提示し、一人一人の良さを生かしながら、協同的な活動をすることが意識できていたと思う。保育室に自然物のマップを作るなど、自分たちが地域の環境の中で生きていることを実感できるような工夫もあった。外国籍の子どもたちの国や、料理を取り入れるなど、いろいろな関係性の中での「自分」というのを意識できるような保育をされていて良かったと思う。

### 【特支】

行事での困り感について相談があった。距離感が分かりにくくトラブルが起きるケースや、物事を捉える視野が狭いため、全体の様子や指示が分かりにくく、見本にしている子が間違っていた場合に修正ができず同じように間違ってしまうケースがあった。練習の回数や経験が少ない場合は、何回か経験すると位置取りなども含めて理解し、落ち着いてくることもある。「何度も繰り返す中で、できるようになれば良いね」と話した。

先生方が丁寧に見ておられるので、改善策を自分達で見つけながら、支援されていると感じた。

### 園⑥

0歳児は、前期にハイハイをしている子がいた。後期には成長し、つかまり立ちができるようになるのではと思い、つかまり立ちができるような玩具を作られてはどうかと伝えると、仕切り兼つかまり立ちができるような玩具が作られていた。さらにビジーボードも作られ、子どもたちの発達に応じた適切な玩具が作られていた。忙しい中よく作られていた。

1歳児は、少し安全面に心配があった。例えば既成の絵本棚を床に置いていて、子どもたちが転んだときに木の枠で頭を打つと危ないと思い、少し高さをつけるよう伝えた。また、動と静の遊びが混在していたので、動の遊びをどちらかに寄せる方法や、坂道を作り、一方向でミニカー滑らせ、ミニカーを拾い、また滑らせるというように、同じ方向で子どもたちが動いて遊ぶ方法を伝えた。それが動の遊びになるのではないかと提案すると、後期には作られていた。

2歳児は、縦長の保育室です。後期では、ハンバーガー屋さんをしていて、壁側に向かってハンバーガーのお店が広げられ、作ることを楽しんでいた。「やりとりができるようにしていきたい」と言われていたので、置く方向を変えると、「いらっしやいませ」などと、子ども同士のやりとりが出てくるのではないかと話した。

3歳児は、炊飯器を手作りし、とてもユニークな遊びを考案し、子どもたちに提案されていた。子どもたちの遊びが深まるように手作りの玩具を考え、面白いものを作っておられた。

4歳児は、絵が苦手な子も楽しめるように、牛乳パックで型枠を作り、なぞって遊べる玩具を作られていた。絵を描く時、自由に描

きたいけど描けないという子に対して、絵を描くことを楽しめるように考えられていた。

5歳児は、言葉遣いがきつい子に対して、「それは駄目よ」という言い方ではなく、「その言い方考えようね」というようなソフトな言い方をされてはと伝えた。

### 【特支】

先生が子どものしんどさを理解し、視覚支援をされていた。その上で、より良くなるためのアイデアを伝えた。朝のルーティンの定着がしにくいという相談だったが、ロッカー前に印をつけるなど、先生が工夫をされていた。その上で、ロッカーの位置を端にして、自分のロッカーの位置を見付けやすく、見たらすべきことが明確に記してあるような視覚支援があると良いと伝えた。

「本を読む時間に、本を読まずに持ってうろうろしている」という相談があった。原因としては、本児が内容を理解しにくいこともあるのではと言われていたので、本を見るための視点になるお題をピンポイントで示すことを伝えた。まず見ることから始め、分かるところを探っていくことを伝えると「それは0, 1歳の時にしておくことでしたね」と返答があり、当該児において本への関心は、発達年齢的には0, 1歳への対応が適していることが伝わった。

気付きは早いですが、言語で伝えにくい子がいた。自分の思いが先行し、先生の意図やルールが伝わらずトラブルを起こしていたので、先生の声かけが、まず「ダメ」から始まっているような気がした。声かけは、まず「なぜ、そうしたか？」を確認し、先生の意図を説明することが大事になる。今どうしたら良いのか1つずつ伝え、人に対して言葉での伝え方や、本児が言葉で伝えることの必要性を感じられるという経験をさせてほしいと伝えた。

課題が明確に提示されたので、踏み込んだ話ができたとと思う。

### 園⑦

0, 1歳児クラスは保育室の使い勝手が難しいと思うが、工夫を重ねておられる。

1歳児は、意図的に体を動かさず環境を作るということだけでなく、遊びの中で自然に体を動かせる状況を作るということを考えていた。何パターンかの坂道を作り、ガチャガチャの空カプセルにドングリなどを入れて転がす仕掛けを作られており、どうすれば

子どもたちが楽しめるのかということを考えながら、玩具作りもされていると思った。

2歳児は、ゆったりと体を使って遊ぶスペースを設けられていた。前期の視察訪問時に提案したことを先生方が主体的に自分たちで考えて行動され、「考えたけれどできませんでした」という言葉が私はすごく嬉しかった。

3歳児は、男の子と女の子が一人ずつずつとお店屋さん（お店の人）をしていたのでお客さん役がしたいのではないかと思い本人たちに聞いてみたが「店の人をしたい」ということだった。お店屋さんになったり、お客さんになったりして遊ぶことも楽しめているような状況だった。

3歳、4歳児が2クラスずつあり共通して言えることだが、それぞれお店屋さんをしていて、2クラス間で交流ができると、遊びがもっと深まっていくのではないかと思った。

5歳児は、劇の練習をしていた。「どう進めていけば良いか」という質問が出たが、先生が楽しんで劇をすることが大事だと思い、子どもたちと一緒に劇を楽しむと良いのではと話した。

#### 【特支】

パニックを起こす子は、起こしている時に刺激を与えることはよくない。パニックを起こす前に対応することが大事だと伝えた。パニックを起こしてしまった場合は、なぜそうなったかを本人が覚えているかいないかによって対応が変わる。覚えているなら落ち着いた時に確認すると良いが、中にはなぜパニック状況になったか忘れていている子もいる。子どもの状態をまず確認してから対応することが大切だと伝えた。

どの相談についても言えることだが、子どもに対して「対応が1つではない」ということが大切。「子どもの状況によって変わってくる」ということを伝えている。

「次の行動に切り替えられない」「片付け」の指示に従わないという質問も多い。終わりが分からない場合や分かっているが不安な場合もある。「片付け」の言葉自体が分からず、「元に戻す」ということがイメージできなかつたりする。具体的な指示として、「そのカゴがいっぱいになったら『終わり』で、次の行動に移るよ」というように提示してもらえると伝わりやすいことを伝えた。

園⑧

じわじわと向上してきている。数年前から比べるとまた1ランク上がってきているという印象。

例えば2歳児の「自由な遊びの時間」。前期の視察訪問時には、用意されているのはままごとのみ。しかし後期視察時は前期の助言を受けてコーナーを複数用意し、机上で遊べるようになっていた。改善しようという意識をもち一生懸命されている。ままごとについては料理のプロセスを楽しめるように考えると良いことも伝えた。

3歳児も環境を工夫されていた。「遊ぶ力が弱い子が育つように」と考えておられたので、例えばブロックの用意の仕方として、大きいカゴにたくさん入れておくと遊ぶ力が弱い子は、物怖じしてうまく入れないこともある、と伝えた。「お1人様セット」のように小分けにしてあげ、その子と先生と一緒に遊ぶということも良いと話した。

4歳児で良いと思ったことは、誕生日表にその月の誕生日児の写真飾られ、一人一人が自分の誕生日に注目を浴びるようにされていたこと。

5歳児さんも制作コーナーがあり、一人一人が自分のイメージをもって工夫して作る姿が見られた。そこで小学校の図画工作の教科書を制作コーナーに開いた状態で置いておく方が良いのではないかとアドバイスした。小学校の図画工作の先取りをする必要はないがそこから刺激を受けるのではないかと話をした。

また就学前と小学校の教育で大きな違いだと思うことが、子どもが興味のあるものをとことん追求していくことができるかできないかであると話した。小学校は教科書があり、この時期はこれをしてはいけないと決まっている。幼児期は、何をするかは各園に任されているがゆえに難しいところがあるが、子どもが興味をもったことをどんどん追求していくことができる良さがあると伝えた。

【特支】

参観させてもらった子がこちらをすごく観察していたので、怖いのだろうと思い、しばらく私も座り込んで距離をとりながら見ていると目が合った。目が合うと興味をもって近付いて来てくれたので、少し関わりながら様子を見ることができた。不安傾向が強くとスタートに時間がかかるので、やりたいと思った時には使いやすい道具がない状況になっていて、成功体験が得にくく自信がなくなることを

伝えた。

前期で相談を受けた子が後期の訪問時にはすごく成長が見られ落ち着いていた。特性や弱さはあるが意欲が出てきていたので、「できる」「できたら楽しい」と思えるように関わってほしいと伝えた。

すでに不適応行動を起こしている状態での相談もあった。年齢に応じた課題をみんなと同じように無理にさせるよりも、「こうしたら自分の思いが伝わる」というところを教えることが大事と伝えた。

#### 【園小接続内容】

視察訪問で各園を回らせていただいて一番印象的なことは、どの園もすごく温かい雰囲気であったということ。小学校と比べるとアットホームな雰囲気の中で、子どもたち一人一人が生き生きと活動していると思った。どの園も子どもたちが安心して過ごせる環境が整っていた。

また、先生方の丁寧な関わりやきめ細かな配慮や工夫にも感心した。これは、小学校の夏休み期間に園小交流訪問で園を見に行かれた小学校の先生方の感想にも多く、こども園の先生方から学ぶところが多いという意見が多数見られた。意図的に設定された場の中で、子どもたちが自然と興味をもって、自主的に取り組む姿、これを拝見し、園児の主体性と創造力を尊重した保育が実践されていると感じた。

小学校では、小中学校を令和の日本型学校教育に、ということで、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指して取り組んでいる。教師主導の一斉授業から脱却し、子どもが自ら学びを深める授業スタイルへの授業改善に取り組んでいるところ。視察訪問で拝見した子どもへの教育活動は、まさにその理念が実現されているのではないかと感じた。意図的に質の高い教育活動が実施されており、その中で指導者が子どもたちにどのように関わるべきか、また教育の工夫をどのように実践すべきかという点で、小学校がこども園から学ぶことは多いと痛感している。こども園で培われた主体性や創造力を小学校教育へと円滑に引き継ぐためには、小学校とこども園のさらなる連携と協働が必要だと感じた。

委員長	資料3 令和6年度の視察訪問アンケートについて事務局から説明をお願いします。
事務局	資料3「視察訪問アンケート」について <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの取り方について</li> <li>・今後の視察訪問の在り方について</li> </ul>
委員長	<p>今説明があったアンケートの取り方について皆さんのご意見をいただきたい。</p> <p>まず考えないといけないのが、「アンケートは何のために取るのか」「誰を対象として声を聞きたいのか」というところが前提だと思う。現場の先生方の声を聞きたいのか、園長・主幹等、園を総括する立場としての声を聞きたいのかということも含めてご意見をいただきたい。</p>
委員	リーダー層と現場を分けてもいいかもしれない。「何のために取るか」という点では、振り返ってもらえると良いと思う。事務局としてはどうか？
事務局	次回の視察に向けて、アンケートの意見を反映し、事務局として改善できたら良いという思いで取りたいと思っている。
委員	「良かった」「良くなかった」という選択肢は意味がない。「今後どうしたら良いか」というところを聞いた方が良い。現場の先生方とリーダー層の話とは少し違って来るかもしれないので分けた方が良いと思う。ただあまり負担にならないようにという配慮は必要。
委員	先生方が負担にならないのであれば、ぜひ現場の先生方にもお願いしたい。現場の先生方が我々にフィードバックする時がないので先生方がどう思っておられるのか率直な意見は、お伺いしたい。ただ、負担という点では検討していく必要があると思う。
委員	管理職とは異なる質問にして現場の先生方に取ったら良いと思う。アンケートは紙で取るのか？フォームズなどで、簡単にできるものにして、みんなの意見が聞けたら良いと思った。

委員	「良かった」だけでなく、「もう少しこういう視点で助言がほしかった」等、言っていただけるのも良いと思う。ただ、負担になるので全員ではなく希望者のみでも良いかと思う。
委員長	今の意見を総合的に考えると、1点目は、現場の先生お一人お一人の意見をこちら側は知りたいということ。2点目は、管理職の思いも聞きたいということ。すると、アンケートは分割した方が良さだろうということになる。現場の先生方は、フォームズなどを使ってスマホで回答できるようにするとともに、強制ではない旨を伝えていただければと思う。意見が次年度への参考になると思う。
事務局	検討していきたいと思う。
委員長	では協議事項(2)についてお願いします。
事務局	4 今年度事業の評価報告について事務局説明 資料4「自己評価報告書作成」について
委員長	これについて何かご意見、質問等はあるか。 各自書くべき所は、明確になっていると思う。 私から1点、これまで園長会で報告書をお渡しした際、園長先生方から、こんなことも書いてほしい等の御意見はあったか？どんな状況か空気感を教えてほしい。
事務局	課題については、教えていただいた方が良いということは聞いているが、文面に表れるものとしては、今まで書いていただいているように、頑張られている部分を主に書いていただけると嬉しい。職員の方も見られるので、モチベーションが上がったり、自己肯定感が高まったりするように書いてもらえると嬉しいと聞いている。
委員長	そのような心構えで書かせていただく。 続きまして協議事項3 その他について
事務局	5 その他について事務局説明 資料5「令和7年度のスケジュール(案)」 ・第2, 3回委員会日程の再検討

	<p>第2回…8月26日(火) 全員可  第3回…1月21日(水) 全員可</p> <p>・視察園について  瀧川委員…どれみ、かすが、つまこども園  鈴木委員…西脇、日野こども園  松尾委員…比延、芳田、黒田庄こども園  特別支援コーディネーター…全園  代表校長…全園</p> <p>資料6「令和7年度施策訪問希望調査(案)」  資料7「こども園保護者アンケート」  資料8「西脇市共通カリキュラム改訂(案)」  幼児教育センター通信『つなぐん』</p>
委員長	<p>各委員から感想、ご意見をお願いします。</p> <p>1点補足で、カリキュラムは、2015年に土台を作り、ねらいを「心情・意欲・態度」で分けて作成した。今回「10の姿」で意味付けるにあたって、赤字加筆している。写真付きの資料は、1枚の同じ写真を使い上のページは「10の姿」で意味付け、下の写真は「資質・能力」で意味付けられている。各園の先生方の役に立てばと思う。</p> <p>皆さんの意見、感想等をお願いします。</p>
委員	<p>10の姿が入ったので良いと思う。センター通信の「つなぐん」も良い。各こども園がセンターに遊びに来ている様子が見えて本当に良い。</p> <p>保護者アンケートは、センターで集約してそのまま送り返すのか？</p>
事務局	<p>幼児教育センターに届いた物をそのまま返す。</p>
委員	<p>記名のアンケートなら大丈夫かと思う。</p>
委員	<p>「つなぐん」で園の保育教材を掲示され、センターが各園に発信されることで、他園を知ることができ、良い刺激になるのではないかと思う。</p>

	<p>また視察訪問での先生方の姿が「共に考えていきたい」という姿に変わってきたと感じる。私たちも、「一緒に考えましょう」となるくらい先生方の質が高まってきたという印象を受けている。</p>
委員	<p>「つなぐん」がとても良いと思った。小学校の方にも発行してもらえるか。小学校低学年の先生に見てもらえると絶対に良いと思う。</p>
委員	<p>お得情報や、「園でこんなことをしています」ということを「つなぐん」で広く皆に知ってもらえればと思う。</p>
委員	<p>園小接続カリキュラム研究委員会で、小学校の先生が「カタカナをポケモンのキャラクターを使って進めた」という話があり、そんな学習の写真も「つなぐん」で皆に広まると良いと思った。園の先生たちにもポケモンはカタカナには良いということが広まると思う。</p>
委員長	<p>この「つなぐん」に関して、ホームページに掲載することは考えているか。保護者の方々がどこまで見てくださるか分からないが、「西脇市の就学前教育で取り組んでいること」という情報発信の1つになると思う。顔はモザイクをかけるなどして発信されたら良い。</p>
委員	<p>この委員会の協議の中で、委員の皆さんの意見として「良くなっているね、皆が育っているね」という話が常に上がっていることもぜひ「つなぐん」で出してもらおうと良い。園の皆さんの励みになるとともに、保護者や地域の方にも、ぜひ発信してもらいたい。</p>
委員長	<p>以上で議題が終了した。みなさんの円滑な審議、御意見に感謝する。進行を事務局にお返す。</p>
事務局	<p>6 次回開催予定          次回の会議は、令和7年4月23日（水）午後1時から予定している。視察訪問希望調査の結果や各園からの意見を踏まえて、令和7年度の就学前教育推進事業の方法などについて、ご協議いただきたい。</p>

事務局	あいさつ  7 閉会 以上をもって、本日の会議を終了する。
-----	--